

2019年1月28日

あおぞら投信株式会社

「打ち破る 己の利から 内向きを 栄光彷徨い どの海渡るや」

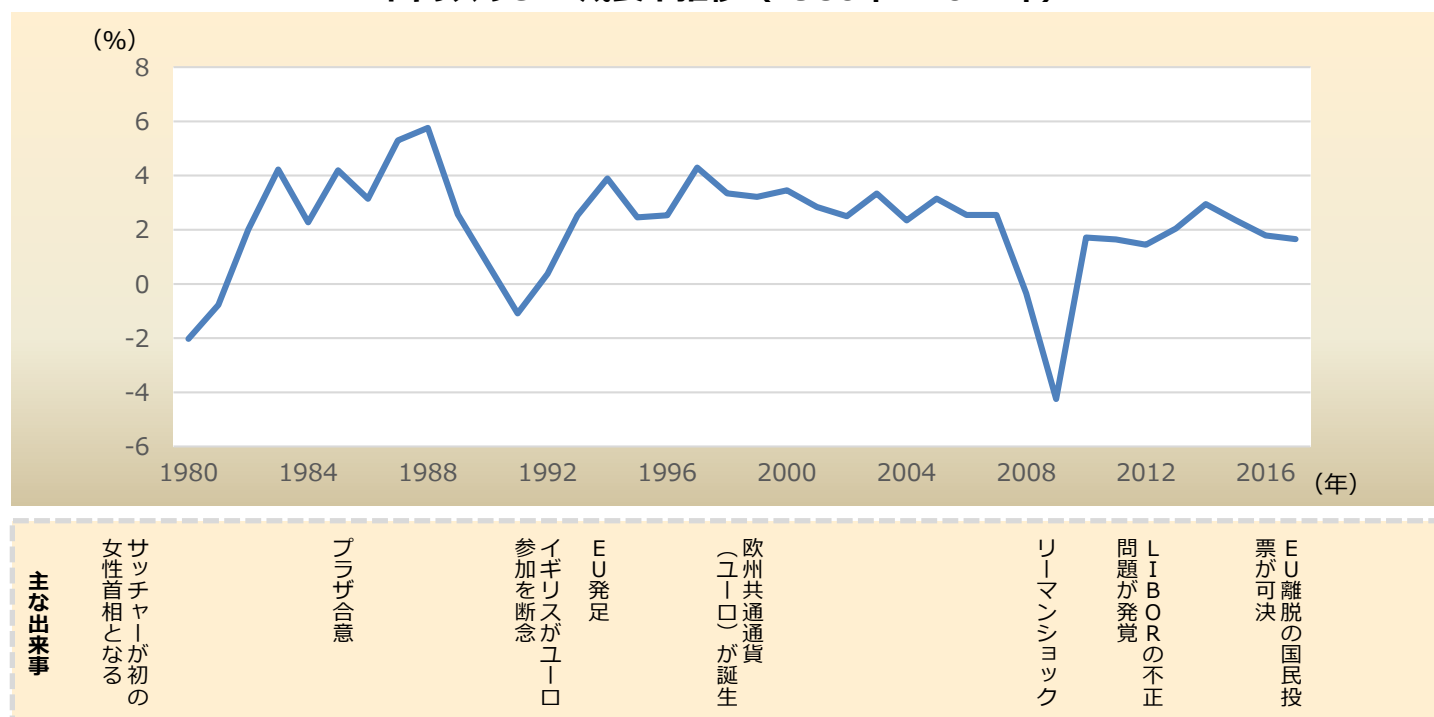
BREXIT(イギリスのEU離脱)に関する国民投票が行われたのが2016年6月23日。翌日の開票でEU離脱賛成が発表された時から、イギリスは難しい道を選んだと思えました。第二次世界大戦時のチャーチル首相の発言からも、統一ヨーロッパ運動の理念的創設の意思が感じられる一方、チャーチルは「イギリスがヨーロッパに限定された連邦連合の単なる一メンバーであることは想像できない」とも発言しています。それくらいイギリスとヨーロッパの関係は複雑な面があります。16世紀に宗教改革から独立したイングランド教会(通称:英国国教会)もひとつの象徴*と言えるでしょう。

現在、メイ首相は英議会下院でのEU離脱案が否決され、与野党合わせて次の合意案を検討しています。そのポイントの1つは2019年3月29日の離脱の期限を延期するか否かです。それは、このまま合意なき離脱となった場合に、今後の交渉のイニシアティブを誰が取れるのかとも繋がっているのでしょう。また大きなカギを握るアイルランドの問題は、国境(人の自由な移動)、司法権、資金(EU加盟費)の支払い停止の中でも、もっとも重要な論点となります。歴史的には、七つの海を制したと言われる時代や、1600年の東インド会社設立といったアジア展開*の時代を持つイギリスが、EUに留まらずに自由貿易協定の締結を進めていきたいと思う気持ちはわかります。ただし、金融の中心であるロンドンの価値には、EUとの関係がまずベースにあり、その前提から東欧、中近東、アジアに対しても高い価値を持っていると思います。これらを踏まえて、新たな世界の関係構築への移行期をどのように進めるかはまだ結論が出ていません。これまでの二大政党の流れも打ち破る時ではないかと考えます。

*上記は筆者の見解であり、記述については諸説あります。

柳谷俊郎

イギリスのGDP成長率推移(1980年～2017年)



主な出来事

サッチャーが初の女性首相となる

プラザ合意

イギリスがユーロ参加を断念

EU発足

欧州共通通貨(ユーロ)が誕生

リーマンショック

LIBORの不正問題が発覚

EU離脱の国民投票が可決

出所: International Monetary Fund, World Economic Outlook Database, October 2018および各種報道を基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号: あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第2771号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス: <http://www.aozora-im.co.jp/>